

おっぱいの女

片耳豚

片耳豚
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

お金の女王



お金の女王

らんま

VS

ハコ



**男になったり女になったり急がしい乱馬
呪いを解くために高名な仙人を訪ねるが
なんとこの仙人！
とんでもない好色エロ仙人だった！
というかまあ、いつものカンジで！**



「ホントにこんなんで呪いが
解けんのかよ……」

「フオフオフオ
まずは精神修練じゃよ
雑念を捨て何事にも
動じぬ心を養うのじゃ」
「へいへい……」

（なんか胡散臭いんだよな……
この爺さん……）

「いいかの？
何があっても動じてはならんぞ」
（フホホッ……これは僥倖じゃて！
斯様に絶品そうなボデーのオナゴが
まさか自分から訪ねてくるとはのう！）

「ええから平常心平常心じゃぞ」
（フヒヒ……これはじっくり丹念に
寝てやらねばならんのう）

ズキッ

「んなめえめえっ！」

「てててめえ！なにしやがるっ！」
「ほれほれ平常心じゃ、
こんなことでいちいち
心を乱しては」
呪いを解くことなぞ出来んわい」

「てっ……めえっ
マジにこんなんだ」
「当然じゃワシ仙人ウツツカナイ
それに一生そのままにいるつもりかの？」
「ぐっ……ぐそ」

「そうじゃそうじゃ……
そのまま静かに動いてはならんぞ」

モ・リ・ム・ム

「んっ……ふう……っ」
（くそ……このジジイ……）
「胸を弄られた程度で狼狽しておるようでは
解呪なんぞとうていとうてい……」
（ふひよー！服の上からでもなかなかじゃったが
直に触ればこれほどとは思わんだ！
嬉しい誤算！）

ム・ニ・ム・ム・ム

「や……っ……くそっ……」
（ねちっこすぎるだろうがっ
このクソ仙人……！）

「オイっこんなんでほんとに
「ふむふむ……この程度では
修練にならないの……」
どれ……少しばかり強めにしてみるか」
「……！」
（強くって……ちよつとまで……）

ヌチヤニチヤ

「んひゅ……ネロオ……んっ……
くちゅ……あはあ……」

（むふふ……だいぶ仕上がったが
加減してあるから乳イキはできまい）
「ようし——今日はここまでじゃ
明日も続けるからしっかり体を
休めるんじゃぞ」

はー♡

はあめ

「わ……わかつひゃあ……んちゅ」

（相当きいとるのお——
もっとも火照った乳では
満足に寝られんじやろうがな
グフツ……これは明日からが楽しみだわい）

初日終了——
翌日もたわわな双球をねちっこく
たっぷりとねぶられる「らんま」
狡猾なエロ仙人の搦手で
徐々に追い詰められていく

修練3日目

「おいこらジジイ！
これホントに呪い解くのと
関係あるんだらうなっ！」

(いや……どー考えてもないじやろ)

「無論じやとも……
精神の練はある程度修まったのでな
今日からは呪いに抗するため
直接肉体を鍛えていくことにする」

(ムフオフオフオ！
なんたるけしからん体じゃい！
これだけ嫌がってもなんだかんだで
着てくるあたり乳鬺りがきいとのお！)

「ちつくしよお……こんなカツコで
こんな……んんっむうっ！
縄食い込んで……ぐっ……」
（ハア……ハア……）
やっぱりうまく体に入んねえ
こんな縄程度で動き止まっちゃうっ
それになんか……擦れるたび
——くそっ！負けっかよお！

ズリズリ

「ハア……ハア……
まだ終わんね……のかよお」

んんっむうっ……んんっむうっ……んんっむうっ……

（うあああ……んんっむうっ……
縄食い込むたびに背筋痺れ……てっ）
「ちよ……っでまっ……くれ……
少し休……ませ……」

「しかたがないのお……
——どおれ」

「ほおれほれ——
仙人特製指圧で
疲れをとってやろうかの！」

「まっ——まっへええええ！」
「遠慮はいらんぞい！そらそらッ
ここじゃろう？ここがコリコリに
こっっておるんじゃろう？」
「やめっ……あっあっあっ……」

わっわ

わっわ

あ♡

グニョクニョー！

「んひゃあああああ」

「コニコニコニ

「あ——ひあっあああ

やえ……ろおおお」

クニョクニョクニョ

「やめ——いっぐぐ……なああっ

俺の——あひょこおおおあ！」

（ティユフフフ——甘露甘露！
念入りに抵抗出来なくしたんじゃ
「らんま」ちゃんのけしからんボテ
隔々まで堪能させてもらおうか）

ん♡

(そろそろ本命の
下ごしらえでもしておこうかの)
「ほおれどうじゃ?」
仙人の太摩羅は特別じゃからの
火照った体に良くきくじゃろ」

「んひゃああー!」

ずむ、ずむ

「てめ……ひんなもん
こそりつけ……へええっええ」
(ヤバイヤバイヤバイ!)
太……摩羅? 突かれたところが
おかしいっ……あたまポォ……てえ
気持ちよすぎてわけわかんねえ……)

「なあに、これも修練の一環よ!」
(イキ焦らしがきいて抵抗出来まい
フヒヒ——太摩羅で直接
ツボを刺激すれば効果は倍増!
ワシのモノなしではいられん体に
躡てくれる!)

ずむ、ずむ、ずむ、ずむ

あゝあゝ

4日目

「はぁーはぁー」
「くそぉ……こんなジジイに
俺の胸好き勝手されてんの……
ジジイの……もので体に触れられるの
気持ちよすぎて力抜けちゃう……」

「これも修行！
ワシの摩羅より進む仙水を浴び
それをよくすり込むことで
体内の気脈を整えるのじゃよ」
（ククク……もつとも、ワシ専用の
雌としての操気じゃがの）

「じゅりこむ……
ふじゃけ……んなあ」

「ちよ……調子……
のってんじゃ……ね……ぞ」
「こらこらいカンぞ
そのような口をきいては
折角の修練が台無しじゃ」

ビュク、ビュク
「ん……ほう……！……
グフフ……しかしこれは
まるでワシの摩羅に
あつらえたような乳じゃのう」

ジュル、ジュル

「あひゃあひゃあ……！」

「せうひゃめ……ひゃめろあ
汁出すなあ……かけられたとこ
あひゃあ……おかひくなるう
おれの体あ……クソジジイの
太摩羅に逆らえなくなるう」

(すっかり摩羅汁の虜じやのう
ムホホ——これなら明日にでも
ワシ好みの雌猫に仕上がりそうじゃて)

(「こんな……のあ……呪いとかんげえねえ……
だめだ……ジジイの思いつホに……
あかんやあ……かせ……熱くて
気持ちあまほら……」)

エロ仙人にガツリたまされた「じじい」
気付くが時既に遅く
すっかり摩羅汁の虜にされた「じじい」
逃げ出す「じじい」
結局一晩中その体を精液で汁にされた「じじい」

5日目

「気がついたかの？」

「は……？」

「んっ！なんで俺縛られてんだ？」

「なに——今日は修行の仕上げじゃよ」

（あのまま気を失って——!!
このジジイ仕上げって何を……？）

ムキユイ

「むふう！このトロみ！
今日まで待った甲斐があったわい！」

おまんこ

「ワシの太摩羅を尻穴で存分に味わい
屈服しなければお主の修行は完遂じゃ」
（ククク……もつとも
ワシのモノのなるまで
続けさせてもらうがなあ）

はじめこそ耐えていた「らんま」だったが
仙人の太摩羅が精液を滲ませ始めたところで
限界が来た――

アナルの間際を卑劣な調教汁で
汚された瞬間に決壊――
深い尻穴アクメを決めさせられ
遂に屈服――

後はもうアナル泣きで弟子入りを誓わされる
エロ仙人の摩羅に嬲られるがままに
挿入を許し泣き悶えを強制される
突かれてはイキ――
抜かれてはイキ――
老獪な仙人の摩羅テクに
卑猥な言葉を仕込まれて
更に鳴かされる――

「んひゃあ……んひゃあ……んひゃあ……」

「ほれほれ、らんま
ケツ穴イキしたらどうするんじゃ？」

「あひゃあ……いいまひゅう……
らんまはあ……
お、お師匠様の太摩羅に
ケツ穴を舐られて
イキましたあ……」

「フオフオフオ可愛い弟子よ
そおらまた仙水を褒美にくれてやろう
出しながら突きまくってやるからの
ケツ穴で飲み込めい」

「ああああ……まじやあ……まじやあ……
お師匠様の太摩羅す……いいいい
俺のケツ穴あ……中毒にな……んひゃあ
出されるたび「ハイメ……
ああああまたきたあ……」

「修行おおおお
ケツ穴修行速すぎあ……んひゃあ
す……と……す……っ……俺……す……っ……」

「あひゃあ……あひゃあ……あひゃあ……」

エロ仙人に弟子入りしたその日から
昼となく夜となく淫熟ボディを
ねっとり調教され続けた「らんま」
すっかり弟子奴隷として躰けられ
ことあるごとに修行と称した
ケツ穴弄りを受けることになる

ところがエロ仙人、連日連夜の
ハッスル摩羅フィーバーで
メキメキ衰える

そんなこんなで一ヶ月——
エロ仙人、腎虚と高血圧が一気に来て
あっさりと腹上死
なんだかんだで
解放された「らんま」だったが
ジジイと仙人は二度と信用しねえ——とのこと

上は大水、下は大火事
でも——真ん中は不定形
四方八方に触手を伸ばし
仔牛五頭をペロリと平らげる
ってなーんだ？どうも片耳豚です。

もうお気付きのこととは思いますが
らんま本なのですね。
お手にとっていただきありがとうございます。
なんだかんだで結構だしてますねお下げの女本。
エロい特殊能力を持ったナニかって便利でいいですよ。
完全にこっちの話ですが——。

そんなこんなでらんまも四冊目ですが
移り気な自分としてはなかなかどうして続くもので、
やや吃驚です。
それだけらんまのポテンシャルが高いということかもしれません。
キャラクターとして超カワイイってことですねえ。

近況としては我ながらちょっと引くくらい何もありません。
本当に——なにも——なにも——フジコ……フジコ。

まあそんなカンジでマモー落ちです。
相変わらずの無内容が達成できたところで、このへんで。

機会があったらまたどこかで、サムイヤでした。

PS:のんのん村に移住したい。

あき



奥付
発行 / 片耳豚
発行日 / 2014. 08. 17
印刷 / コムフレックス
連絡 / katamimibuta@yahoo.co.jp